

## 生協のはじまり

19世紀、世界に先駆けて産業革命が興ったイギリスで、28人の労働者により「ロッチデール公正開拓者組合」が設立されました。これが世界で最初の生協です。

日本の生協の歴史は大正時代にさかのぼります。1921年に現在のコープこうべの前身となる神戸購買組合と灘購買組合、1926年に現在の大学生協の前身となる東京学生消費組合、1927年に東京に江東消費組合などが設立されました。このような生協の誕生の中心となった人物が“生協の父”といわれる賀川豊彦です。戦後、協同組合運動の復興を目指して、日本協同組合同盟(日本生協連の前身)が1945年に設立され、賀川豊彦が初代会長に就任しました。その後、1951年に日本生協連が生協法(1948年)に基づき設立され、その初代会長もつとめました。

### 賀川 豊彦

(1888~1960年)



社会運動家で、日本における“生協の父”。労働者や農民の困窮した状態を憂い、救済運動を行いました。1923年の関東大震災では、ただちに神戸から被災地に入り救済活動を行いました。兄弟愛による協同組合運動の必要性を痛感し、購買や医療生協、共済、協同組合金融などの創設に尽力しました。